

# おくのほそ道 散策マップ

## 出羽街道中山越 芭蕉の道を訪ねて

俳聖・松尾芭蕉のたどった足跡は、「歴史の道」「奥の細道」として整備され、多くの人々に愛されています。鳴子・中山平温泉の森の中には、この古道「出羽街道中山越」が、今も当時のままの姿で残されています。ここでは、中山平温泉の入り口である「尿前の関跡」から「封人の家」までの約10kmの区間を、中山平を中心に芭蕉のたどった古(いにしえ)の道を行く旅をご案内いたします。

### 出羽街道中山越を歩く 参

～山神社から軽井沢・封人の家へ(軽井沢コース)～

出羽街道中山越のルートの中で一番歩きやすく、周辺のロケーションが変化に富んでいるのが軽井沢コース。中山宿跡からすぐに山神社があり、そこから続くうっそうとした杉木立の道はまるで時代劇の街道筋のような趣がある。その木立を通りすぎて坂を上ると眺めは一転し西原ののどかな農道が続く。晴天なら陽光の光を存分に受けながら約13キロ先の軽井沢越え入り口までトレッキングが楽しめる。軽井沢越えの森の中に分け入ると、また道の表情が変わり、なだらかな起伏と腐葉土の柔らかな土がシューズの下から伝わり足取りも軽くなる。軽井沢コースの特徴は、このゆるやかな起伏が続く道を陽ざしが照らしている明るさだろうか。小深沢・大深沢のうっそうとした原生林を歩くのとは違い、明るい。スギゴケが道のいたるところに生えており、それらが木もれ日に照らされる光景はとてもすがすがしい。そのためか、軽井沢にはベンチや東屋が多く、木々を渡る風を感じ、鳥の声を聞きながらのひとやすみも格別。



### 出羽街道中山越 史跡

- 尿前の関跡
- 尿前の関
- 芭蕉の句碑
- 薬師神社
- 尿前坂
- 弁慶坂
- 鳴子村跡守楽跡
- 音藤茂吉歌碑
- 前田夕暮歌碑
- 青山金剛童子碑・子育て地藏
- 庚申碑
- 甘酒地蔵尊
- 三界萬霊碑
- 封人の家

### 中山平エリア

1 関の茶屋	2 鳴子峡	7 大深沢遊歩道	16 大久保整体療術院
3 さつき亭	4 皇天大神神社	10 中山平遊歩道	17 宿屋茶
6 食事処 文楽	5 日本こけし館	11 たかはし農園	18 古遊工房・遊佐建築
11 上野食堂・やおやじ	8 鳴子峡レストハウス	23 ゆき果実工房	27 鳴鼓堂
12 そば処 七福神	9 イロハモシ	24 みちのく精工工場	28 上野こけし店
14 板そば 薩治朗	13 ORAGA鳴子の熱帯植物園	25 南原ホテルの里	29 山神社
15 いろり亭 田舎や	18 古峯神社	32 南原ホテルの里	30 神の木
17 駅前商店街	31 南原穴場	33 冬期間閉鎖ゲート	35 岩堂沢
21 みちのく精工工場	32 南原ホテルの里		
23 ゆきそ巻き工房	33 南原ホテルの里		
24 封人の茶屋 時空	34 岩堂沢ダム(笹葉湖)		
27 芭蕉茶屋	35 堺田分水嶺		

### 中山平温泉 遊歩道 の魅力を探る

中山平温泉には、芭蕉の歩いた「おくのほそ道-出羽街道中山越」の他にも散策に適した遊歩道がたくさんあります。

#### 鳴子峡

「鳴子峡遊歩道」は「花洲山側入口」と「こけし館側入口」が工事のため閉鎖。そのため鳴子峡レストハウスから入り「大谷観音」手前までの折り返し通行になっている。片道約1,300mで往復約50分。また国道47号沿いの「中山平側入口」から、新設された「回廊橋(みかえりはし)」は片道約350m、往復約30分、入口から回廊橋までの折り返しの通行。峡谷の下からの眺めと合わせて眺めたいのが「新展望台」。大深沢遊歩道入口駐車場そばの花洲山と大谷川を一望する展望デッキが新設された。

#### 大深沢遊歩道

平成20年10月に新設された遊歩道で、歴史の道をたどりつつも、より広くて安全なルートをとる要望から誕生した。幅員が約4m、勾配の緩やかな約1.5kmのルートで、40～50分で歩ける。出羽街道中山越と合流し、大深沢に下る石段、沢越えを体験できるため森林浴にもってこいのルート。遊歩道の傍にはモミジやカエデ、クリやトナリの落葉広葉樹の木立が続き、秋には色とりどりの色彩がトンネルとなって迎えてくれる。もちろん新緑の時期もおススメのコースとなっている。

#### 軽井沢コース

軽井沢コースは、出羽街道中山越のルートの中でも、まるで里山のハイキングコースのような、のどかな風景の中を歩ける。中山宿跡から山神社を通り抜け、大柴山のふもとに広がる西原の田園風景を眺めながら農道を進むとやがて軽井沢コースの入り口にさしかかる。この先はモミジ、イタヤカエデ、ホウキなどの広葉樹の森の中をのんびり進む。清らかな沢越えも味わえる「おくのほそ道」が堺田の出口まで続く。

### 尿前の関～大深沢越 拡大MAP

#### 道標

- 奥の細道 尿前の関入口
- ←出羽街道中山越 尿前の関跡0.1km→
- 尿前の関跡 → 薬師坂・花洲山
- 薬師坂・花洲山
- 斎藤茂吉歌碑
- 木製 出羽街道 奥の細道 →
- ←小深沢 薬師坂・尿前の関→
- 木製 内山伊右衛門の墓
- 木製 奥の細道 → 国道47号線
- 奥の細道 大深沢コース1.5km 第3駐車場側入口
- ←中山宿跡2.0km ↑大深沢・小深沢(小深沢1.6km) →鳴子峡0.7km
- 奥の細道入口
- ←出羽街道中山越
- 大深沢遊歩道入口
- ←第3駐車場側入口 →大深沢橋側入口
- 第3駐車場側入口まで約200m 大深沢橋側入口まで約1300m
- 木製 奥の細道
- 奥の細道 大深沢コース1.5km 第3駐車場側入口
- ←大深沢・小深沢 (大深沢1.5km) ↑大深沢・小深沢(小深沢1.6km) →鳴子峡0.7km

### 出羽街道中山越を歩く 参

～小深沢から大深沢・中山宿跡へ～

芭蕉と曾良が中山平を越える少し前に伊達藩が尿前の関を整備したという。それというのも日本海側と太平洋側を隔てる奥羽山脈越えの中でも「出羽街道中山越」は標高が低く、比較的越えやすいところだったため。古くは大崎氏の時代から、当時の伊達藩にとっても軍事的な要衝として守りの要だった。そのため幕政時代は沢を越える道にも橋を架けることなく、旅人には難所として知られていた。現在、小深沢・大深沢の沢越えのポイントには、板の橋が架けられているが、芭蕉と曾良が歩いた当時はこれもなく、けもの道のようなわずかな踏み跡を頼りに歩いたという。義経一行もたどったという山道らしいが、曾良と二人だけではさぞかし心細い道行だったことだろう。今この道を行くだけでも、その心細さを感じることはできないが、往時のことを思うと確かに難所だったろうと思われる。うっそうと茂るブナ、クリ、ナラやカエデといった木々の枝葉が陽光を遮る道を抜けると、芭蕉が訪れた当時と変わらないと思われる美しい風景が現れる。ここが難所「大深沢越え」とはちょっと信じられないスポットとなっている。沢の周辺に差し込む光の中で苔むした石が、『古道』の趣を強く語りかけてくる。

### 出羽街道中山越を歩く 参

～尿前の関から小深沢へ～

### 出羽街道中山越を歩く 参

～尿前の関から小深沢へ～

芭蕉と曾良が鳴子を訪れたのは1689年7月1日(元禄2年、旧暦5月15日)。「おくのほそ道」の旅に出てから47日目のことだった。しかし尿前の関にたどりついたものの通行手形(今でいうパスポート)を持っていなかったため、関守に怪しまれてなかなか通過を許されなかったという。前後は、奥州では知人もいない心細さから、まさに「道の奥」であり「細道」であることを強く実感していた記述が見られる。紀行文「おくのほそ道」の冒頭の一文に詠われているのは、『すべては峠に似ている』という芭蕉が抱く人生観である。芭蕉が通過するのにも苦労したこの関所跡が、出羽街道中山越、小深沢に至る道のスタート。芭蕉が訪れた6～7月には、関跡の広場に建てられた芭蕉像の傍らに、ツジの樹が咲き誇る。

### 「尿前の関跡」と「尿前の関」

義経伝説に、亀刺で生まれた亀丸が、この地に来て初めて啼き、尿をしたのがこの関の場所。以後「尿前」と呼ばれるようになったとある。大永年間(1521-2)には「小深沢」の関が築かれ、仙臺になって「尿前」と改称された。寛文10年(1670)に「尿前所」となった。芭蕉と曾良は元禄2年(1689)この関所であやまれば、事情を説明してもなかなか通してもらえなかった...という記述が残っている。

### 前田夕暮歌碑

「関の森(ふるさとの森)」の傍らには、神奈川出身の歌人・前田夕暮(1883～1951)の歌碑が建つ。(平成4年10月建立)「あさげにふきあふるるあおかしのせやくを開けはすにて春なり」

### 内山伊右衛門の墓

慶応4年(1868)閏4月22日、薩摩藩士・内山伊右衛門が、官軍に帰順した秋田藩へ弾薬輸送の途中、鎮越沢で仙臺藩の荒井守の隊と遭遇し、5名に暗殺された。墓は明治3年(1870)鹿島島から内山の子孫が訪れて建立した。

### 遊佐大石神

昔「庚申の日」には人体に横む「三尸(さんし)の虫」という虫が、寝ている間に体外に出て天の神にその人の罪を告げ、生命を奪う...という言い伝えが、それを防ぐため、庚申の日には村人が身を清め、一軒の家に集まり夜を過ごしたという。青面金剛は、庚申会の守り本尊。

### 小深沢越

国道と合流した先の小深沢橋に「小深沢入口」の道標があり、左手の沢に下る。200mほどで小深沢を越える。この沢の急な昇り階段が古道の風情を高めてくれるロケーションとなっている。その先のうっそうとした木立が、芭蕉と曾良の足跡を見ながら進む道に厳しく、大深沢に次ぐ難所といわれた小深沢越え。

### 大深沢越

大深沢は、軍用の要衝として橋をかけなかったため、深い谷底へ下りて越えねばならないつらおり道が続く最も険しい沢だった。小深沢から続く平坦な森には道と交差するようになり土壁や空堀の跡が今も残っている。現在は橋がかけられ、沢への急ごりも石組みの階段が設けられて、せせらぎの音とともに美しい光景にうつりする。

### 芭蕉の句碑・薬師神社

句碑は、芭蕉が通過してから約80年後に建てられたもので、自然石に「嵐風馬の尿する杖もとの句が刻まれている。尿前坂の入り口にある「薬師神社」はもととは岩手の森にあった。この森は、尿前の関が坂下に移るまで番所が置かれていた所。源義経に同道して平泉に下るときに、腹痛を起した北ノ方(方山)に救われたという伝説の地であり、そのお礼として義経が井原に建立させたせせらぎの跡地になっている。